

市民文教委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

視察の目的

今日の社会において、心豊かに質の高い生活を送るには文化の力が必要であり、今後のまちづくにおいても文化は大きな役割を果たすものとする。しかしながら、文化の担い手の減少や次世代への育成が非常に重要な課題となっている。今後、文化振興を図っていくことが大切になることから、文化創造活動の活性化と継承に取り組んでいる仙南地域広域行政事務組合と可児市の事例を調査することとした。

また、現在、学校再編について懇話会を実施し、学校統廃合を含めた再編を進めていることから、子どもたちの未来にとって望ましい教育環境について考え、10年後の新しい学校のイメージを示し、新しい学校づくりを進めておられる小田原市の事例を調査することとした。

「市民文教委員会の令和7年の重点事項」

- (1) 豊かな学びを支える教育基盤整備に関する調査・研究
- (2) 市民による文化芸術活動の活性化に関する調査・研究

視察先及び日程

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。



日 程		視察先	調査事項
令和7年5月13日（火）	午後2時45分～4時15分	仙南地域広域行政事務組合(宮城県)	市民による文化芸術活動の活性化に関する取組について
令和7年5月14日（水）	午前10時～11時30分	神奈川県小田原市	教育環境の在り方、新しい学校づくりの考え方について
令和7年5月15日（木）	午前9時30分～11時	岐阜県可児市	市民による文化芸術活動の活性化に関する取組について

市民文教委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

【仙南地域広域行政事務組合(宮城県)】 調査事項：市民による文化芸術活動の活性化に関する取組について

《仙南地域広域行政事務組合（宮城県柴田郡大河原町）の取組の概要》

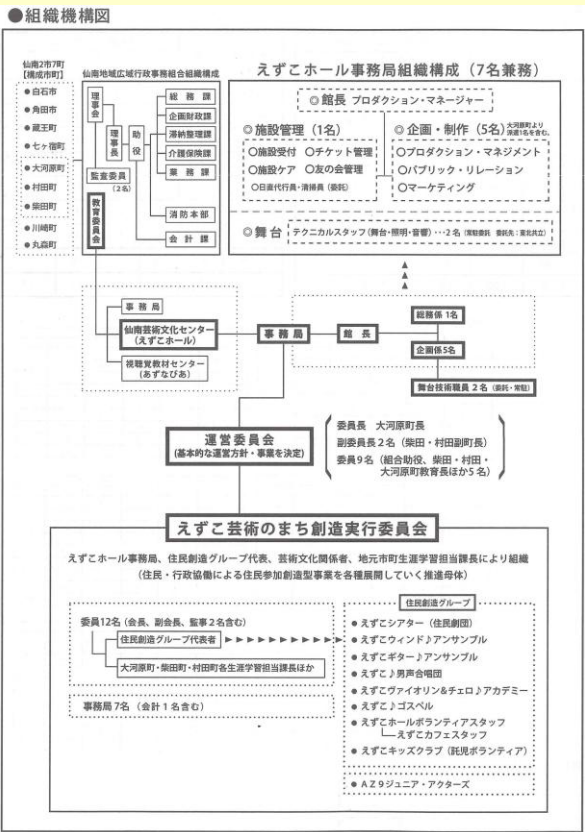
◇ 仙南芸術文化センター「えずこホール」は、設立当初から「住民参加型文化創造施設」を運営コンセプトに掲げ、ホールを拠点にしながら地域の文化的な人材交流ネットワークの形成、アートによる人と地域の活性化をテーマとし、圏域の文化芸術の創造活動拠点として位置付け、市民の鑑賞、創造、発表の場づくりを促進されていた。



◇ 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野と連携、協働し、文化芸術により生み出される様々な価値を地域に還元し、地域の活性化につながっていた。

《委員の所感》

- 文化活動を活用して地域を活性化させるという考え方に対して、市民理解があることに本市との違いを感じる。文化は形あるものではなく、人の心を耕す、人々の生活に常にあるものと理解されており、押し付けるものではないと感じた。本市でも、市民が文化とは何かを考える機会が必要であると考えます。
- えずこホールは、文化活動の拠点施設としての位置付けがしっかりとされており、本市との違いを感じる。また、市民が積極的に文化活動を継続していくには、文化活動の拠点となる施設が重要であることを改めて認識した。



市民文教委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

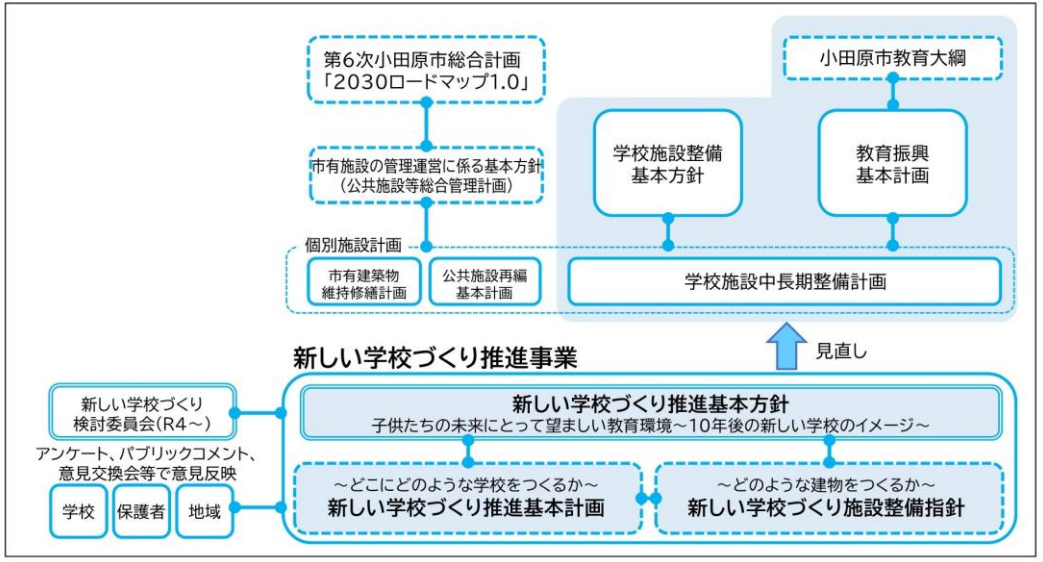
【神奈川県小田原市】調査事項：教育環境の在り方、新しい学校づくりの考え方について

《小田原市の取組の概要》

- ◇ 少子化や技術革新などの社会変化に伴い、新しい学校教育や教育環境が求められる中、子どもたちの未来にとって望ましい教育環境について考え、「10年後の新しい学校のイメージ」を示し、新しい学校づくりを推進されていた。
- ◇ 新しい学校づくりを進めていくためには、7割を超える学校施設が築40年を経過し、児童・生徒数の減少と学校施設の老朽化は、早急に解決が求められる大きな課題であり、学校施設整備に要する財政負担を考慮しながら課題を解決していくことは非常に難しく、学校関係者や地域住民等、多様な主体との合意形成を丁寧に行いながら、学びの規模に加え、地域特性に応じた学校制度の導入や学校配置の見直しを検討されていた。



＜新しい学校づくり推進事業の位置付け＞



《委員の所感》

- 新しい学校づくり推進事業では、これまでの取組の中でたくさんの会議・調査・アンケートが実施されていることに感心した。
- 学校施設の統廃合はどこも共通の課題であり、一番重要なのは住民合意であると改めて感じた。少子化による学校の再編はどの自治体も同じであり、課題も同じである。問題は議論の過程でどれだけ丁寧に地域・子ども・教職員の声を集め、合意に至ったかである。そういった点では、時間をかけての議論、丁寧さを学ぶべきであると感じた。

市民文教委員会調査視察

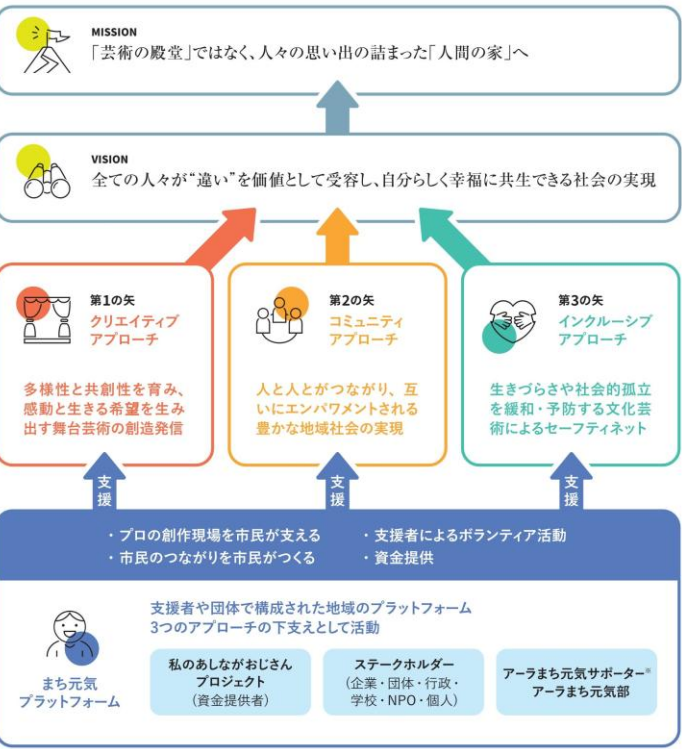
実施日：令和7年5月13日～15日

【岐阜県可児市】調査事項：市民による文化芸術活動の活性化に関する取組について

《可児市の取組の概要》

◇ 可児市文化創造センター「ala（アーラ）」は、文化芸術を継承・創造し、発信する場である。人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点の場として、その役割及び機能を最大限に生かし、全ての市民が地域社会で生き生きと暮らすことのできるまちづくりに寄与することを目的に設立された。

◇ 「芸術の殿堂」ではなく、人々の思い出が詰まった「人間の家」として「つながりを醸成する」ことを目指し、全ての人が” 違い ” を価値として受け入れ自分らしく幸福に共生できる社会の実現に取り組まれていた。



《委員の所感》

- ala（アーラ）は、披露の場だけでなく、練習に集う場所「文化交流拠点」としての役割を担っており、本市との違いを感じる。市民の自主的な文化活動につなげていくといった役割も担っているおり、学ぶべき点であると感じた。
- 文化に対する考え方や活動目的等で「文化芸術が人々の生きづらさや孤立・孤独の解消に大いに貢献する」「文化芸術の力で生きる力とコミュニティを創出し、まちを元気にすることを目的に活動を行っている」ことに対して共感するものであった。
- 施設管理を財団が行っており、市直営で行うメリットもあるが、財団運営のメリットも認識されており、本市は財団運営から直営へと切り替えて数年が経つが、こうした運営は文化振興とも関連してくるので参考にするべきであると感じた。